

第2節 小串構内の立会調査

1 医学部図書館新築に伴う立会調査

調査地区 医学部構内

調査期間 昭和58年11月1日

調査方法 立会（試掘）調査

調査結果 工事日程や調査自体等の諸条件からトレンチ等による本格的な予察調査は困難であったため、機械掘削による地層の観察に重点を置き、建設予定地内の4地点（Fig. 102）に試掘坑を設定し、遺物包含層および遺構の有無を調べた。

その結果、4地点共に現地表より約0.8～1 mまでは、置土（整地土）と旧建物以前に設置していたと察する構造物に関する攪乱層（ガレキ、煉瓦等）が存在する。その直下には部分的に旧耕作土の可能性のある淡青灰白色粘質土が認められた。以下、第1～3地点では工事に伴うボーリング結果（Tab.21）に示されている第2層の火山灰質に相当する土層が2.5～2.8 mまで厚く堆積する。さらに下で砂層の堆積が認められたが、湧水が激しく十分な観察はできなかった。第4地点の層序は置土以下は他の3カ所とは大きく異なるものであり、粘土・粗砂が堆積する。

今回の調査では全く遺物・遺構は確認できず、土層の観察では当建物予定地に限っては埋蔵文化財が埋蔵する蓋然性は小さいと考える。

（森 田）

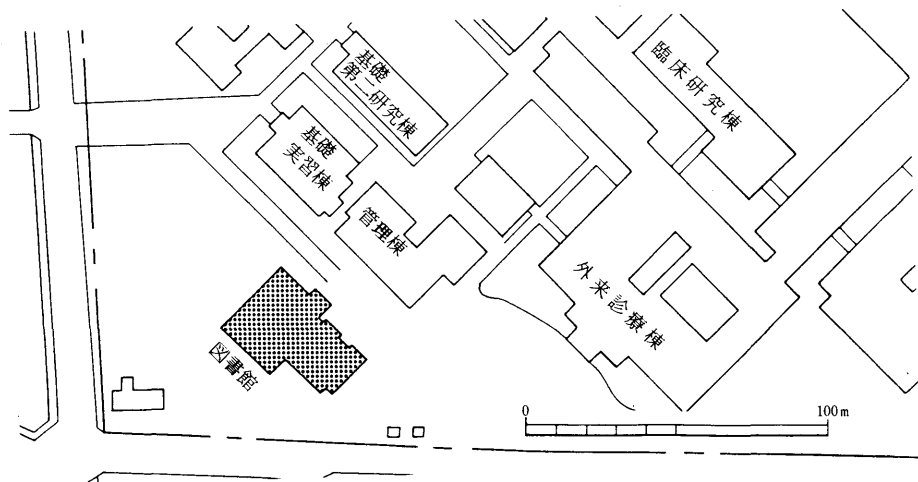


Fig.101 調査区位置図

医学部図書館新築に伴う立会調査

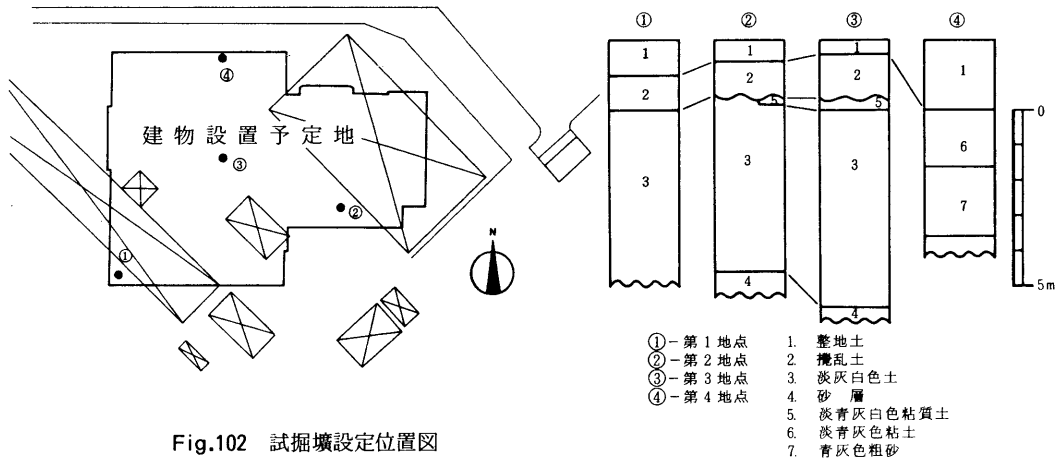


Fig.102 試掘坑設定位置図

Fig.103 土層断面図

Tab.21 ボーリング調査結果表

標尺 (m)	標高 (m)	深さ (m)	層厚 (m)	現場観察記録		
				土質名	色調	記事
1	7.60	1.00	1.00	埋立土	暗灰色	砂粘土、礫を含む 石灰灰
2	5.96	2.70	1.70	砂	乳灰色	1.00~2.00の間 粘性あり 火山灰質である
3	5.31	3.35	0.65	砂質粘土	淡青灰色	全体的に粘性大である
	5.11	3.55	0.20	礫混り砂	淡黄灰色	全体的に中粒子の砂で
	4.80	3.85	0.30	粘土	黄褐色	所に約2~15%の礫を含む
4						所々に固結した部分 あり粘性大
	3.96	4.70	0.85	シルト	暗青灰色	腐植物混入 所々に粘性あり
5	3.76	4.90	0.20	粘土	暗茶灰色	粘性大
	3.46	5.20	0.30	砂質粘土	暗灰色	微粒砂を含む
	3.31	5.35	0.15	粘土混り砂	暗灰色	一部小礫を含む
6						φ2~50 ^m / _m の円、 角礫、粗砂を含む
7						
8						
9						
10	1.14	9.80	4.45	砂 礫	暗青灰色	
	1.24	9.90	0.10	炭	暗茶灰色	粘性大で硬い
	1.74	10.40	0.50	石灰	黒褐色	
11	2.34	11.00	0.60	頁岩	黒褐色	粘性があり硬質
	2.74	11.40	0.40	砂岩	茶灰色	中粒子の砂岩
	3.04	11.70	0.30	頁岩	茶灰色	非常に硬質
12	3.34	12.00	0.30	砂岩	暗青灰色	中粒子の砂岩

2 医学部体育館新営付随工事に伴う立会調査

調査地区 医学部構内 (Fig.104)

調査期間 昭和59年 3月31日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 1 m²

調査協力 人文学部考古学研究室

調査結果 第7章で述べた体育館新営に伴う試掘調査地域の東方に位置する4地点について土層の堆積状況並びに遺構・遺物の有無を観察した。

A・B両地点では工事の性格上掘削が比較的小規模であったためA地点において上位から腐蝕土および構内造成時の置土を含む表土(第1層、以下個々の層順番号は第7章における土層の層順番号に準じる)、旧耕土(第2層、第3層)、床土(第4層)、堆積灰色粘土(第5層)および青灰色粘土(第6層)上面を確認したにとどまった。

しかし、C・D両地点において第6層下部、現地表下2mに植物遺体を含む青灰色粗砂(第7層)が堆積しており、体育館新営予定地内で把握された土層の堆積層順はその堆積厚には若干の差異はあるものの、少なくとも新営予定地以東のD地点付近までは基本的に同一層順を示していることが観察された。

いることが観察された。

今回の調査では調査範囲の狭小さと相俟って顕著な遺構・遺物は確認できなかったが、真締川等に起因すると思われる各堆積層、とりわけ遺物を包含する第5・6層の分布範囲、堆積状況について遺物の流入経路を含めて今後の詳細な調査が必要と思われる。(河村)

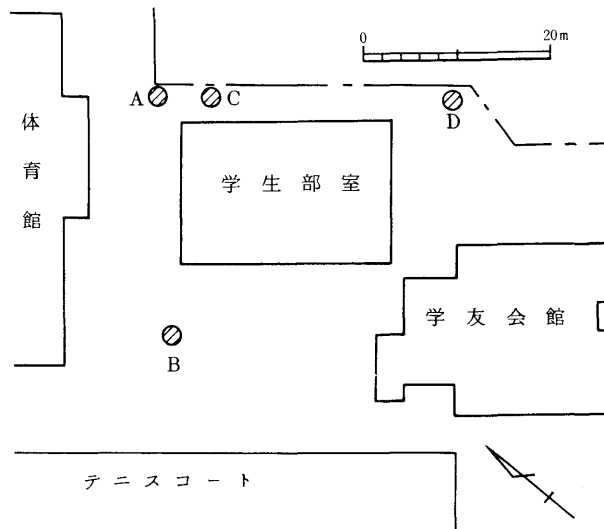


Fig.104 調査区位置図